

令和 6 年 4 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10550

研究課題名（和文）在宅看取りに影響する同一地域病院の機能の解明：NDBレセプトと公開データ併用分析

研究課題名（英文）Elucidation of the functions of the same regional hospital that affect death at home: A combined analysis of National Data Base and public data.

研究代表者

たら澤 邦男（Tarasawa, Kunio）

東北大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：30632806

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、National Databaseと公開データを用いてがん患者における在宅看取りの実態を明らかにし、在宅看取りの多寡に影響を与える医療資源・医療活動を明らかにした。

在宅看取り割合は、女性・65歳未満で最も高く、65歳未満では都道府県別でばらつきがみられた。在宅看取りの関連要因として性別・年代別に関わらず増加要因として医師の訪問診療が多いこと、減少要因として急性期の病床数が多いこと等が明らかとなった。性別・年代別の違いを考慮した在宅療養支援体制の充実、および訪問診療を担当する医師の養成や、地域の機能別病床配分の最適化などの医療政策推進が重要と考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本は超高齢社会および多死社会という側面を持つ。国民の約55.0%が最期は自宅で過ごすことを希望しているが、自宅で亡くなる人は約10%にとどまり、73%が病院で死亡している。特に死因第1位のがんによる病院死割合はさらに高い。自宅で亡くなる割合が高く、病院で亡くなる割合が低いことは、終末期の適切なケアの指標とされることから、自宅で最期を迎えることを希望する患者、特にがん患者の希望をかなえる条件整備が急務である。

我々は日本のNational Database（NDB）と公開データの併用分析により、在宅看取りに与える影響要因を明らかにした。本研究結果は在宅療養支援充実へ有用な基礎情報を提供する。

研究成果の概要（英文）： We used the Japanese National Database and public data to clarify the actual state of death at home among cancer patients and the medical resources and medical activities that affect the percentage of death at home.

The percentage of death at home was highest among females under the age of 65, and there was variation among prefectures for those under the age of 65. As factors related to deaths at home, it was clarified that the increase factor was the number of doctor's home visits, and the decrease factor was the number of hospital beds in acute care, regardless of gender and age. It is important to enhance the home care support system that takes into consideration gender and age differences, further train doctors who are in charge of home visits, and optimize the distribution of hospital beds by function in the region.

研究分野：在宅医療

キーワード：在宅看取り 病院機能 NDBレセプトデータ 官公庁公開データ がん患者 医療資源 医療の活動量
都道府県

1. 研究開始当初の背景

日本は超高齢社会を迎えている。総人口に占める 65 歳以上の割合は 27.7% に到達し (総務省 2018)、世界に類を見ないスピードで高齢化が進展している。また、日本の総人口は自然減の段階となっており、出生数が 100 万人を切る一方、死亡数は 130 万人にのぼる (人口動態統計 2017) ため、我が国は超高齢に加え多死社会の側面も有する。

こうした中で死亡場所に関する統計をみると、国民の約 55% が自宅で最期を迎えることを希望 (内閣府 2012) する一方、実際に死亡する場所の 74% は病院 (人口動態統計 2016) である。特に死因第 1 位であるがんによる病院死の割合は 83% とさらに高く (人口動態統計 2016)、この割合は国際的にも高い水準 (Joakim et al 2017) である。したがって、がん患者を中心として、国民が希望する場所で最期を迎えるための条件整備が急務の課題である。

がん患者に対する在宅看取りと病院死の症例を扱う先行研究は、本研究課題に関する有用な洞察を提供している。しかしながら、これまでの報告は主に単一施設調査や小規模質問紙調査等の結果をまとめたものであるため、日本全国の普遍的な実態が未知の状態である。したがって、大規模データを活用した実態の解明が望まれる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、在宅看取りを検証する観点から、在宅看取りの高低に対し同一地域の病院機能が与える影響について大規模データを用いて明らかにすることである。

本研究の学術的独自性は、同一地域の病院機能を地域の医療資源と位置づけし在宅看取りに与える影響を推定すること、および全国を対象とした大規模データの解析を行うことで在宅看取りに関連する要因を地域の特性ごとに明らかにすることである。

本研究の学術的創造性は、同一の地域にどのような機能があれば在宅看取りの充実が図れるか検討できること、および在宅看取りの充実を図るために有効な方策を患者の性別および年代別など複眼的に検討できることである。

3. 研究の方法

(1) 分析対象

本研究は、日本の National Database (NDB) と公開データからなる異なる大規模データを併用して実施し、当該データを都道府県単位で連結してデータベースを構築した。

在宅看取りは NDB より取得した。NDB は厚生労働省の「匿名レセプト情報・匿名特定健診情報の提供」事業の集計表情報を活用した。NDB は日本全国のレセプトデータと特定健診データについて全体の 9 割以上の情報を含む汎用性の高いデータベースである。NDB は申請者 (研究代表者) の要望に基づき担当者により抽出され、集計済みの状態で申請者 (研究代表者) へ提供される。在宅看取りは、2017 年度 NDB の医科入院・医科入院外・DPC に含まれる「転帰が死亡のがん患者」を対象とし、在宅看取り割合を都道府県別、性別および年代別 (65 歳以上、65 歳未満) に把握できるようデータを取得した。対象症例の抽出について、まず傷病名に「がん」の文字列が含まれる患者を抽出した。その際、「疑い」を含む傷病名およびがんの傷病名転帰が「治癒」のものを対象外とした。次に、傷病名転帰に死亡が登録された患者、または入院および外来の診療費算定項目において死亡診断および看取りに関する加算 (在宅ターミナルケア加算、看取り加算) を算定した患者を抽出した。さらに、当該患者を、入院患者、外来患者 (在宅医療に係る死亡診断または看取りの加算を算定した患者)、外来患者 (その他) に分類した。当該患者 (+ +) に占める外来患者 (在宅医療に係る死亡診断または看取りの加算を算定した患者) の割合を在宅看取り割合とした。

本研究では、在宅看取りの対象を とすることで、患者が在宅で最期を迎えることを希望し、それを受けて訪問診療等を行う医師がターミナルケアおよび看取りを完遂した症例を漏れなく含むことができるよう工夫した。またこれらの抽出基準によって、自宅における孤独死等の症例は対象から除外した。

公開データは地域の医療資源と医療活動を活用した。地域の医療資源は厚生労働省ホームページより取得した。同ホームページより医療資源 5 種 (在宅療養支援診療所数、在宅療養支援病院数、訪問看護ステーション数、DPC 算定病床数、療養病床数) を抽出した。地域間の比較可能性を担保するため、これらの医療資源は都道府県別の人口 10 万人あたり件数に補正した。地域の医療活動は内閣府ホームページより取得した。「都道府県別レセプト情報等を集計した診療行為の性・年齢調整済み地域差、Standardized Claim-data Ratio、SCR による医療活動 5 種 (一般病棟入院基本料、療養病棟入院基本料、往診料、在宅患者訪問診療料、訪問看護指示料)」を抽出した。SCR は 100 を上回ると性・年齢調整後の人口規模に対して当該医療活動が多く、100 を下回ると少ないことを意味する指標であり、地域の医療特性を把握する際の分析に活用される。

(2)分析方法

分析は、まず症例全体の在宅看取り割合を集計したのち、性別（女性／男性）、年代別（65歳以上／未満）、性別・年代別（女性・65歳以上／女性・65歳未満／男性・65歳以上／男性・65歳未満）からなる層別の在宅看取り割合を集計し比較した。次に都道府県別に～の在宅看取り割合をヒートマップで可視化し、平均値、標準偏差、変動係数を記述した。ヒートマップとは数値の高低を色の濃淡で可視化した図であり、全体の動向を捉えることに優れる。さらに重回帰分析により～の都道府県別在宅看取り割合に影響を与える地域の医療資源・医療活動を推定した。割合の比較はChi-square testを用いて行った。重回帰分析は、都道府県別在宅看取り割合（n=47）を従属変数とし、ステップワイズ法を用いて実施した。独立変数は、従属変数と有意な相関がみられる医療資源・医療活動とし、共線性への配慮のため独立変数間の相関係数が0.7を超える関連がある際は一方を除外して投入した。

4. 研究成果

(1)在宅看取り割合

対象患者として195,887症例が抽出された。症例全体の在宅看取り割合は28.9%であった。在宅看取り割合について、性別は女性が有意に高く（女性30.7% vs 男性27.6%、 $p<0.001$ ）、年代別は65歳未満が有意に高かった（65歳以上28.6% vs 65歳未満33.1%、 $p<0.001$ ）。性別・年代別は、全体の割合（28.9%）に対して女性・65歳以上および女性・65歳未満が有意に高く（30.2%、 $p<0.001$ ）および37.0%、 $p<0.001$ ）男性・65歳以上が有意に低かった（27.4%、 $p<0.001$ ）（表1）。

表1. 在宅看取り割合の集計および比較

	合計	在宅看取りあり		在宅看取りなし		p値*
		件数	割合	件数	割合	
全体	195,887	56,650	28.9%	139,237	71.1%	
性別:						
女性	83,950	25,777	30.7%	58,173	69.3%	$p<0.001$
男性	111,937	30,873	27.6%	81,064	72.4%	
年代別:						
65歳以上	181,453	51,874	28.6%	129,579	71.4%	$p<0.001$
65歳未満	14,434	4,776	33.1%	9,658	66.9%	
性別・年代別:						
女性・65歳以上	77,301	23,317	30.2%	53,984	69.8%	$p<0.001$
女性・65歳未満	6,649	2,460	37.0%	4,189	63.0%	$p<0.001$
男性・65歳以上	104,152	28,557	27.4%	75,595	72.6%	$p<0.001$
男性・65歳未満	7,785	2,316	29.7%	5,469	70.3%	$p=0.099$

* Chi-square test

(2)都道府県別在宅看取り割合

都道府県別在宅看取り割合について、全体、性別（女性／男性）、年代別（65歳以上／未満）、そして性別・年代別（女性・65歳以上／女性・65歳未満／男性・65歳以上／男性・65歳未満）にヒートマップで可視化した。47都道府県の配列は、全体の在宅看取り割合の降順で示した。その結果、女性、男性、65歳以上、女性・65歳以上、男性・65歳以上では全体と同様に色の濃淡が目立つたばらつきはみられなかった。一方、65歳未満、女性・65歳未満、そして男性・65歳未満では色の濃淡に大きなばらつきがみられ、前者に比べ標準偏差および変動係数も高値を示した（図1）。

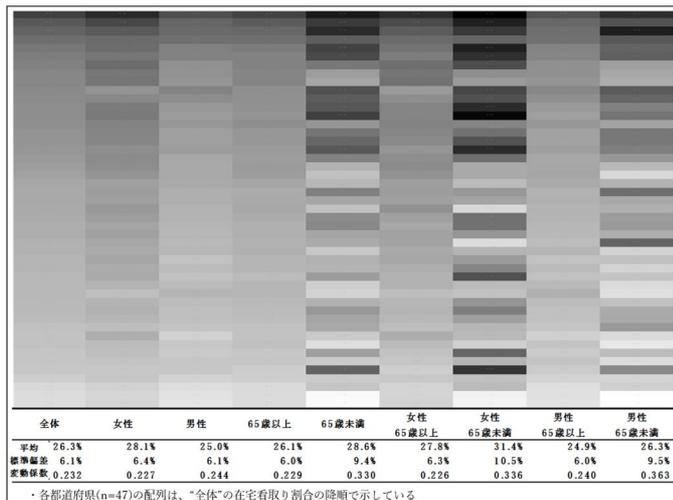


図1. ヒートマップ（性別・年代別、都道府県別在宅看取り割合）

(3) 在宅看取り割合に影響を与える地域の医療資源・医療活動

重回帰分析では、独立変数としてDPC算定病床数、療養病床数、在宅患者訪問診療料が投入された。解析の結果、性別、年代、性別・年代のすべての層で在宅患者訪問診療料が有意な正の関連を示した。一方、DPC算定病床数はすべての層で有意な負の関連を示した。また、療養病床数は女性、65歳以上、女性・65歳以上の各層で有意な負の関連を示した（表2）。

表2. 在宅看取り割合に影響を与える医療資源・医療活動（重回帰分析）

	性別				年代別				性別・年代別							
	女性		男性		65歳以上		65歳未満		女性・65歳以上		女性・65歳未満		男性・65歳以上		男性・65歳未満	
	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値	標準化係数	p値
DPC算定病床数	-0.312	0.003	-0.439	<0.001	-0.317	0.004	-0.364	0.002	-0.272	0.012	-0.400	0.001	-0.445	<0.001	-0.286	0.025
療養病床数	-0.257	0.014			-0.245	0.023			-0.296	0.006						
在宅患者訪問診療科	0.590	<0.001	0.577	<0.001	0.580	<0.001	0.522	<0.001	0.579	<0.001	0.500	<0.001	0.573	<0.001	0.474	<0.001
調整済みR ² 値	0.649		0.567		0.627		0.426		0.631		0.433		0.569		0.309	

・従属変数：都道府県別在宅看取り割合（n=47）

・独立変数：DPC算定病床数、療養病床数、在宅患者訪問診療科

・ステップワイズ法

(4)総括

本研究は、在宅看取りを検証する観点から、在宅看取りの高低に対し同一地域の病院機能が与える影響について大規模データを用いて明らかにした。同一地域の病院機能は、同一都道府県の医療資源および医療活動として評価を行った。

本研究には 2 つの利点が含まれる。1 つ目は、全国の大規模データを用いて在宅看取りの実態をより詳しく明らかにした点である。特に NDB の普及は日本の在宅医療の現状を明らかにする上で大きな効果がみられた。2 つ目は、在宅看取り患者を高い精度で抽出した点である。在宅医療に係る死亡診断または看取りの加算を算定した患者を対象として抽出することで、医師が訪問し在宅での死亡が確認された事例の抽出精度を向上させるよう工夫した。これらの利点により、我が国のがん患者における在宅看取りの実態をより詳細に明らかにすることができたと考えられる。

分析の結果、在宅看取り割合は、女性・65歳未満で最も高いこと、65歳未満、女性・65歳未満、男性・65歳未満で都道府県別にばらつきがみられることが明らかとなった。さらに都道府県別在宅看取り割合について、性別・年代別の違いに関わらず、増加要因として医師の訪問診療実施件数が相対的に多いこと、減少要因として急性期の病床数が多いことが明らかとなった。加えて慢性期の病床数が多いことは、女性、65歳以上、女性・65歳以上の各層で在宅看取り割合の減少要因であることが明らかとなった。

我々が知る限り、これらの結果は大規模かつ高い精度のデータを活用した初めての知見である。また、日本の全国調査に基づく結果であるため、我が国の在宅看取りの普遍的な傾向を示していると考えられる。さらに、日本と同様に高齢化が進む諸外国における在宅看取りの課題に対して貴重な示唆を提供することが期待される。

今後に向けて、在宅療養支援体制のさらなる充実、および訪問診療を担当する医師の養成や、地域の機能別病床配分の最適化などの医療政策推進が重要と考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 46件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 32件）

1. 著者名 Tarasawa K, Fujimori K, Ogata T, Chiba H	4. 巻 -
2. 論文標題 Associations Between Death at Home with Medical Resources and Medical Activities in Cancer Patients: A Nationwide Study Using Japanese National Database	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Annals of Geriatric Medicine and Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4235/agmr.23.0048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi T., Tarasawa K., Fushimi K., Ota C., Sekiguchi S., Aoyagi T., Yaegashi N., Aoki M., Fujimori K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Decreased hospitalized cases of acute meningitis during the COVID-19 pandemic in Japan.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2169/internalmedicine.3022-23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Y., Tarasawa K., Misu T., Namatame C., Takai Y., Kuroda H., Fujihara K., Fushimi K., Fujimori K., Aoki M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Dynamic changes in patient admission and their disabilities in multiple sclerosis and neuromyelitis optica: A Japanese nationwide administrative data study.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mult Scler Relat Disord	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.msard.2023.105349	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi T., Tarasawa K., Fushimi K., Yaegashi N., Aoki M., Fujimori K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Demographic profiles and risk factors for mortality in acute meningitis: a nationwide population-based observational study.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Acute Med Surg	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ams2.920	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ikumi S., Shiga T., Ueda T., Takaya E., Iwasaki Y., Kaiho Y., Tarasawa K., Fushimi K., Ito Y., Fujimori K., Yamauchi M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Intensive Care Unit Mortality and Cost-Effectiveness Associated with Intensivist Staffing: A Japanese Nationwide Observational Study.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Intensive Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40560-023-00708-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi T., Tarasawa K., Hamada H., Iwama N., Tomita H., Akaishi M., Fushimi K., Fujimori K., Yaegashi N., Saito M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Prenatal hypertension as the risk of eclampsia, HELLP syndrome, and critical obstetric hemorrhage.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Hypertens Res	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-023-01511-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi T., Shiga H., Tarasawa K., Shimoyama Y., Naito T., Moroi R., Kuroha M., Kakuta Y., Fushimi K., Fujimori K., Kinouchi Y., Masamune A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Comparative effectiveness of tacrolimus and infliximab in hospitalized patients with ulcerative colitis.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Clin Transl Gastroenterol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14309/ctg.00000000000000642	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda M., Kikuta K., Hamada S., Takikawa T., Matsumoto R., Sano T., Sasaki A., Sakano M., Tarasawa K., Fujimori K., Fushimi K., Masamune A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Trends and clinical characteristics of pediatric acute pancreatitis patients in Japan: A comparison with adult cases based on a national administrative inpatient database.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Pancreatology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pan.2023.10.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Moroi R., Tarasawa K., Nagai H., Shimoyama Y., Naito T., Shiga H., Hamada S., Kakuta Y., Fushimi K., Fujimori K., Kinouchi Y., Masamune, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Effectiveness of Antibiotics for Uncomplicated Diverticulitis: A Retrospective Investigation Using a Nationwide Database in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Digestion	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000534167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hidaka H. Tarasawa K., Fujimori K., Obara T., Fushimi, K., Shimamura A., Iwai H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Identification of Risk Factors for Mortality and Prolonged Hospitalization in Patients Treated With Surgical Drainage for Otogenic Intracranial Complications: A Nationwide Study Using a Japanese Inpatient Database.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Otol Neurotol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/mao.0000000000004038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka I., Tarasawa K., Saito H., Hirasawa D., Fujimori K., Fushimi K., Matsuda, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Is proton-pump inhibitor effective in preventing postoperative bleeding after esophageal endoscopic submucosal dissection?.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Dis Esophagus	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/dote/doad060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki D., Tarasawa K., Fushimi K., Fujimori K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Risk factors of readmission and the impact of outpatient management in heart failure patients: A national study in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ESC Heart Fail	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ehf2.14498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe H., Tarasawa K., Hatta W., Koike T., Sato I., Ono Y., Ogata Y., Saito M., Jin X., Kanno T., Uno K., Asano N., Imatani A., Fujimori K., Fushimi K., Masamune A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Similar effect of vonoprazan and oral proton pump inhibitor for preventing rebleeding in upper gastrointestinal bleeding.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Intern Med	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.2211-23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi T., Tarasawa K., Matsumoto Y., Sandhya P., Misu T., Fushimi K., Takahashi T., Fujimori J., Ishii T., Fujimori K., Yaegashi N., Nakashima I., Fujihara K., Aoki M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Associations between neuromyelitis optica spectrum disorder, Sjogren's syndrome, and conditions with electrolyte disturbances	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Neurol Sci	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jns.2023.120742	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八田和久, たら澤邦男, 阿部寛子, 小池智幸, 藤森研司, 正宗淳	4. 巻 35(12)
2. 論文標題 臨床研究をやってみよう!(シーズン3)(第5回) DPCデータベース研究の特徴と実際	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 消化器内視鏡	6. 最初と最後の頁 1779-1783
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司, 千葉宏毅, 尾形倫明	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 性別・年代別の違いに着目したがん患者の都道府県別在宅看取りと医療資源・医療活動との関連 : National Databaseを用いた全国調査	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本在宅医療連合学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 入院前の在宅医療の有無からみたがんの病院死症例に関する研究 国の悉皆性を有するDPCデータと公開データを用いた都道府県別および地域の医療資源と活動量の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	6. 最初と最後の頁 81-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda M, Hamada S, Kikuta K, Takikawa T, Yoshida N, Matsumoto R, Tanaka Y, Kataoka F, Sasaki A, Tarasawa K, Fujimori K, Fushimi K, Masamune A.	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 Acute Pancreatitis in Japan: Comparison of Before and After Revision of the Clinical Guidelines.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pancreas	6. 最初と最後の頁 261-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MPA.0000000000002009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oyama H, Moroi R, Tarasawa K, Shimoyama Y, Naito T, Sakuma A, Shiga H, Kakuta Y, Fushimi K, Fujimori K, Kinouchi Y, Masamune A.	4. 巻 6(12)
2. 論文標題 Depression is associated with increased disease activity in patients with ulcerative colitis: A propensity score-matched analysis using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JGH Open	6. 最初と最後の頁 876-885
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgh3.12836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akaishi T, Tarasawa K, Fushimi K, Hamada H, Saito M, Kobayashi N, Kikuchi S, Tomita H, Ishii T, Fujimori K, Yaegashi N.	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Risk Factors Associated With Peripartum Suicide Attempts in Japan.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JAMA Netw Open.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jamanetworkopen.2022.50661	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Moroi R, Tarasawa K, Shimoyama Y, Kuroha M, Shiga H, Kakuta Y, Fushimi K, Fujimori K, Kinouchi Y, Masamune A.	4. 巻 37(7)
2. 論文標題 Effectiveness of colonic stent placement for obstructive colorectal cancers: An analysis of short-term results using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Gastroenterol Hepatol.	6. 最初と最後の頁 1316-1325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15857	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mizuta M, Tarasawa K, Fushimi K, Fujimori K.	4. 巻 259(1)
2. 論文標題 Effect of Postoperative Pain Management after Robot-Assisted Radical Prostatectomy: A Study on Reducing Hospital Length of Stay and Medical Costs Using Japanese Nationwide Database	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.2022.J092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiga H, Tarasawa K, Moroi R, Makuuchi M, Takahashi T, Shimoyama Y, Kuroha M, Kakuta Y, Fushimi K, Fujimori K, Kinouchi Y, Masamune A.	4. 巻 37(11)
2. 論文標題 Long-term effectiveness of ustekinumab comparable to antitumor necrosis factor agents in patients with Crohn's disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Gastroenterol Hepatol.	6. 最初と最後の頁 2105-2112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyazaki D, Tarasawa K, Fushimi K, Fujimori K.	4. 巻 259(2)
2. 論文標題 Risk Factors with 30-Day Readmission and the Impact of Length of Hospital Stay on It in Patients with Heart Failure: A Retrospective Observational Study Using a Japanese National Database	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 151-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.2022.J114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Fujimori, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi	4. 巻 3:4
2. 論文標題 Cost-effectiveness of polymyxin B hemoperfusion for septic shock: an observational study using a Japanese nationwide administrative database	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Anesthesia, Analgesia and Critical Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s44158-023-00087-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Fujimori, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Effectiveness of polymyxin B hemoperfusion for sepsis depends on the baseline SOFA score: a nationwide observational study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Annals of Intensive Care	6. 最初と最後の頁 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13613-021-00928-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori Kenji, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide	4. 巻 25(4)
2. 論文標題 Effects of Polymyxin B Hemoperfusion in Patients with Sepsis Requiring Continuous Hemodiafiltration: Analysis of a Nationwide Administrative Database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ther Apher Dial	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13655	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yano K., Moroi R., Shiga H., Tarasawa K., Shimoyama Y., Kuroha M., Hamada S., Kakuta Y., Fushimi K., Fujimori K., Kinouchi Y., Masamune A.	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Analysis of the disease activity of ulcerative colitis with and without concomitant primary sclerosing cholangitis: An investigation using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JGH Open	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgh3.12693	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuki Noda, Kunio Tarasawa, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori	4. 巻 3(4)
2. 論文標題 Drug Treatment for Patients with Postoperative Delirium and Consultation-Liaison Psychiatry in Japan: A Retrospective Observational Study of a Nationwide Hospital Claims Database	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Annals of Clinical Epidemiology	6. 最初と最後の頁 116-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.37737/ace.3.4_116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戴下千恵美, たら澤 邦男, 山本 康弘, 山根 淳一, 谷戸 祥之	4. 巻 33(4)
2. 論文標題 頸椎疾患における在院日数と診療点数への影響要因に関する研究 JOACMEQ評価スコアとDPC調査データとの関連性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tarasawa K, Fujimori K, Fushimi K	4. 巻 252(1)
2. 論文標題 Recombinant Human Soluble Thrombomodulin Contributes to a Reduction In-Hospital Mortality of Acute Cholangitis with Disseminated Intravascular Coagulation: A Propensity Score Analyses of a Japanese Nationwide Database	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med.	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.252.53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 入院前の在宅医療の有無からみた入院患者の特徴と救急車搬入による入院割合に関する研究 高齢者を対象とする大規模DPCデータを活用した横断分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司	4. 巻 32(4)
2. 論文標題 SOFAスコアの不明登録および活用に関する評価 大規模DPCデータを用いたICUへの緊急入院患者の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori K, Tarasawa K, Fushimi K	4. 巻 12
2. 論文標題 Effects of Polymyxin B Hemoperfusion on Septic Shock Patients Requiring Noradrenaline: Analysis of a Nationwide Administrative Database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Blood Purif.	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000513213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rintaro Moroi, Kunio Tarasawa, Hisashi Shiga, Kota Yano, Yusuke Shimoyama, Masatake Kuroha, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune	4. 巻 -
2. 論文標題 Efficacy of urgent colonoscopy for colonic diverticular bleeding: A propensity score-matched analysis using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Gastroenterol Hepatol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hidaka H, Tarasawa K, Fujimori K, Obara T, Fushimi K, Sakagami T, Yagi M, Iwai H	4. 巻 -
2. 論文標題 Identification of risk factors for mortality and delayed oral dietary intake in patients with open drainage due to deep neck infections: A nationwide study using a Japanese inpatient database	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Head Neck	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hed.26660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai C, Tsuda S, Tarasawa K, Fushimi K, Fujimori K, Nakazawa T.	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Risk factors leading to trabeculectomy surgery of glaucoma patient using Japanese nationwide administrative claims data: a retrospective non-interventional cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Ophthalmol.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12886-021-01897-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤森研司, たら澤邦男, 伏見清秀	4. 巻 39(3)
2. 論文標題 CHDFを施行するハイリスクな敗血症に対するPMXの効果 DPC大規模データからの検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本アフェレンス学会雑誌	6. 最初と最後の頁 190-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森研司, たら澤邦男	4. 巻 2809
2. 論文標題 電子レセプトによる速報システムの有用性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森研司, 石井成幸, 玉置淳子, 中藤真一, 沖本信和, 小川純人, 伊木雅之	4. 巻 2803
2. 論文標題 National Databaseによるわが国の骨粗鬆症の診療状況の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rintaro Moroi, Hisashi Shiga, Kunio Tarasawa, Kota Yano, Yusuke Shimoyama, Masatake Kuroha, Yoichi Kakuta, Kiyohide Fushimi, Kenji Fujimori, Yoshitaka Kinouchi, Atsushi Masamune	4. 巻 -
2. 論文標題 The clinical practice of ulcerative colitis in elderly patients: An investigation using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 An open access journal of gastroenterology and hepatology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgh3.12541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Abe Hiroko, Kunio Tarasawa, Kenji Fujimori, Kiyohide Fushimi et al	4. 巻 -
2. 論文標題 Prevention of delayed bleeding with vonoprazan in upper gastrointestinal endoscopic treatment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kemmyo Sugiyama, Toru Tsuboya, Taketoshi Okita, Naho Tsuchiya, Kunio Tarasawa, Tomoaki Ogata, Shintaro Yanaka, Akio Tomoda	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Residents in a Remote Island Having Family Members in Distant Areas Showed Higher Preference for Place of End-of-Life Care: The Ajishima Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMA journal	6. 最初と最後の頁 138-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2019-0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kemmyo Sugiyama, Toru Tsuboya, Taketoshi Okita, Naho Tsuchiya, Kunio Tarasawa, Tomoaki Ogata, Shintaro Yanaka, Akio Tomoda	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Residents in a Remote Island Having Family Members in Distant Areas Showed Higher Preference for Place of End-of-Life Care: The Ajishima Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 138-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2019-0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 電子レセプトデータベースを用いた骨粗鬆症治療薬の大腿骨近位部骨折予防効果の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 高志, たら澤 邦男	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 遠隔医療の臨床評価と政策的活用手段の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本遠隔医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 104-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 電子レセプトデータベースを用いた骨粗鬆症治療薬の薬剤変更による継続率、遵守率の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 461-470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤 邦男, 藤森 研司	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 広域抗菌薬使用時の血液培養実施率に関連する要因に関する研究 DPCデータを用いた臨床指標の構築と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 骨粗鬆症治療薬の継続率、遵守率の分析における電子レセプトデータベースの活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 277-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 たら澤邦男, 藤森研司
2. 発表標題 DPC全国データを用いた様式1におけるデータの欠損または不明登録等の発生要因に関する研究
3. 学会等名 日本診療情報管理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 たら澤邦男, 千葉宏毅, 尾形倫明
2. 発表標題 性・年代別の違いに着目したがん患者の都道府県別在宅看取りと医療資源・医療活動との関連：NDB集計データを用いた全国調査
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮本周, たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀
2. 発表標題 大規模DPCデータを活用した小児喘息入院患者における 2刺激薬の分析
3. 学会等名 日本小児アレルギー学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井汲沙織, 志賀卓弥, 岩崎夢大, 海法悠, 高屋英知, たら澤邦男, 伊藤由希子, 藤森研司, 山内正憲
2. 発表標題 特定集中治療室管理料1・2と特定集中治療室管理料3・4における増分費用効果比を用いた費用対効果分析
3. 学会等名 日本集中治療医学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 たら澤邦男, 尾形倫明, 千葉宏毅
2. 発表標題 年代の違いに着目したがん患者の都道府県別在宅看取り割合と医療資源等との関連に関する研究 NDB集計データと公開データを併用した日本の全国調査
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 たら澤邦男, 藤森研司
2. 発表標題 特定集中治療室管理料算定病床におけるSofaスコア登録漏れの傾向に関する研究～DPC全国データを用いた時系列解析～
3. 学会等名 日本診療情報管理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千葉 宏毅, 守屋 利佳, 森谷 就慶, 尾形 倫明, たら澤 邦男, 佐橋 正寅, 小澤 竹俊, 千田 恵子, 浜田 努, 久保田 千代美
2. 発表標題 患者が抱く他者への負担感(SPB)にかかわる援助的コミュニケーションの研究 ロールプレイを用いた研修効果の推定
3. 学会等名 日本ヘルスコミュニケーション学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本 勇貴, たら澤 邦男, 三須 建郎, 生田目 知尋, 高井 良樹, 黒田 宙, 藤原 一男, 藤森 研司, 伏見 清秀, 青木 正志
2. 発表標題 多発性硬化症及び視神経脊髄炎患者における入院数及び重症度の経時的変化
3. 学会等名 日本神経治療学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部 寛子, 八田 和久, たら澤 邦男, 小野 義高, 尾形 洋平, 齊藤 真弘, 菅野 武, 金 笑奕, 宇野 要, 小池 智幸, 今谷 晃, 藤森 研司, 伏見 清秀, 正宗 淳
2. 発表標題 上部消化管出血患者における, ポノプラザンのPPI内服に対する再出血・死亡リスクの検討 傾向スコアを用いたDPCデータベースの解析
3. 学会等名 Gastroenterological Endoscopy
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 たら澤邦男, 尾形倫明, 森谷就慶, 千葉宏毅
2. 発表標題 NDB集計データと公開データを併用したがん患者の都道府県別在宅看取り割合と医療資源等との関連に関する研究
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 たら澤邦男, 藤森研司
2. 発表標題 DPCデータにおけるSofaスコアの登録と臨床疫学的活用 ~ 不明登録の状況とDIC治療薬の有効性 ~
3. 学会等名 日本診療情報管理学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉宏毅, 守屋利佳, 尾形倫明, たら澤邦男, 森谷就慶, 太田一樹
2. 発表標題 エンド・オブ・ライフケアに関わる専門職を対象としたコミュニケーション研修前後の会話変化と患者評価に関する研究
3. 学会等名 日本ヘルスコミュニケーション学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾形倫明, 千葉宏毅, たら澤邦男, 森谷就慶, 伊藤道哉, 濃沼信夫
2. 発表標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果その2
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 たら澤邦男
2. 発表標題 遠隔医療の診療報酬の現状と課題, 令和2年度診療報酬改定の概要
3. 学会等名 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢野恒太, たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀 他
2. 発表標題 高齢者潰瘍性大腸炎治療指針の検証 診断群分類別包括評価(DPC)データを用いた本邦における高齢者潰瘍性大腸炎治療の現状
3. 学会等名 日本消化管学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野田由記, たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀
2. 発表標題 日本における術後せん妄患者に対する薬物療法と精神科医の介入
3. 学会等名 日本精神神経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上 彰臣, 堤 明純, 守屋 利佳, 千葉 宏毅, 島津 明人, 市倉 加奈子
2. 発表標題 北里大学医学部における行動科学・行動医学教育の実践
3. 学会等名 日本行動医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅
2. 発表標題 日本ALS協会会員対象当事者ニーズ調査報告
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾形 倫明, 千葉 宏毅, 三澤 仁平, たら澤 邦男, 森谷 就慶, 太田 一樹, 伊藤 道哉, 濃沼 信夫
2. 発表標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果
3. 学会等名 日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 たら澤 邦男, 藤森 研司
2. 発表標題 入院前の在宅医療の有無からみた入院患者の特徴と救急車搬入割合 高齢者を対象としたDPCデータ解析
3. 学会等名 日本診療情報管理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川 高志, たら澤 邦男
2. 発表標題 遠隔医療の臨床評価と政策的活用手段の検討
3. 学会等名 日本遠隔医療学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>生と死のヘルスケア研究会 (WELL Study) https://haphap.wixsite.com/wellstudy</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤森 研司 (Fujimori Kenji) (80264539)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森谷 就慶 (Moriya Yukinori) (80382696)	東北文化学園大学・医療福祉学部・教授 (31310)	削除：2022年5月10日
研究分担者	尾形 倫明 (Ogata Tomoaki) (60633675)	東北医科薬科大学・医学部・助教 (31305)	
研究分担者	千葉 宏毅 (Chiba Hiroki) (90713587)	北里大学・医学部・講師 (32607)	
研究分担者	三澤 仁平 (Misawa Jimpei) (80612928)	日本大学・医学部・助教 (32665)	削除：2020年7月8日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関